

「米軍泡瀬飛行場 跡地」

インターネット記事より抜粋引用

<米軍泡瀬飛行場> 1945年5月1日、米国海軍により着工。1520mの滑走路をもつ海軍専用の飛行場として、同年7月に完成。同年9月に本格的な運用が始まる予定であったが、日本敗戦の為、一部を残し、放棄。1977年3月に概ね返還。

一部の海軍の通信施設を除き、全てが返還され、現在は区画整理され、沖縄県総合運動公園と市街地になっている。ハイパーマーケット前の道路網が、滑走路の後につくられた道路である。

現在の沖縄市美東中学校南側には、戦闘機用の仮設飛行場が作られていて、毎日朝早くから戦闘機が飛び立ち、島尻の南部戦線を爆撃したであろうか。夕方になると帰ってくるのだった<みち潮の川上氏（平成13年、泡瀬の追憶）による>。



1945年12月10日 米軍空撮



ハイパーマーケット前の道路